

## 子育ての社会的支援活動に関する研究—夜間保育所の場合—

## (その1) 実施状況

○増田宏美\* 北浦かほる\*\* 萩原美智子\*\*\*

(\*大阪市大・院, \*\*大阪市大, \*\*\*大手前女子短大)

**1 はじめに** 近年、女性の社会進出や就労形態の多様化、母親の孤立と育児不安の増大など、育児を取り巻く環境は厳しく、社会的な子育て支援の要望が増している。多様な利用者に答える夜間保育園での子育て支援活動の実施状況から活動充実の為の指針を探る。

**2 方法** 夜間保育をモデル事業時(1981年～1995年)から行う6園を対象に、通常の保育活動以外の支援活動について、施設長への聞き取り、園の提供資料、現場の観察等の詳細な調査を行った。調査期間は2000年5月～8月。

**3 結果** 6園で見られた支援活動は①宿泊保育②病児保育③病気明け保育④休日保育⑤一時保育⑥乳幼児支援⑦保護者支援⑧学童保育⑨高齢者支援⑩障害者支援⑪地域支援であり、これを支援対象から、I働いている親の支援、II孤立している親の支援、III学童保育、IV地域支援の4タイプに分類した。②は医療的処置や隔離空間の必要性から実施が困難で、実施園でも利用制限が多い。IIでは働いていない親やその子どもの交流促進や育児相談の機会を設けており、本来、保育園の対象外である層にも支援が行われていた。⑪では地域に向けた行事の実施もあり、地域に溶け込んだ園を目指している事が伺えた。支援活動には、園の成立の経緯や母体の特性、方針、立地の関与が大きい。現状では利用者に制限があるものが多く、空間的な余裕や融通性の無さが活動を制限している事も認められた。